学校だより　　令和４年　１１月３０日

横浜市立榎が丘小学校

～豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子～

TEL　045(983)1067　　*FAX*　045(983)5284
HPアドレス　https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/enokigaoka

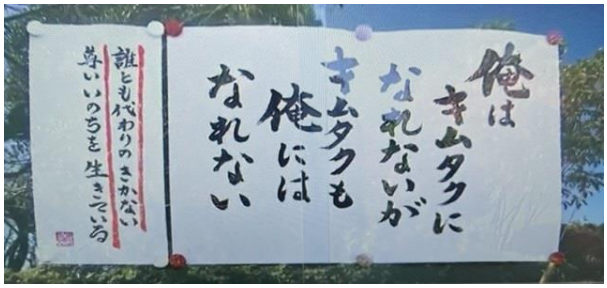
一人に一つずつ

校長　　仲川　美世子

少しずつ世の中全体が動き出し、行きたいところに出かけたり、人と会ったりしやすくなってきました。この秋は暖かい日も多く、お出かけしたい気分に拍車がかかった方もいらしたと思います。

学校でも行動制限を緩めたいところではありますが、社会全体では感染者数が多い状況で、毎週お知らせしているように、学校関係者の感染報告も続いています。子どもたちに２ｍほど距離をとって人と過ごしましょう、というのは少し無理があるのかなと思っています。教室の座席でも１ｍがやっとですし、休み時間などは友達と組んずほぐれつする姿が、ある意味、子どもとしての自然な姿です。

ですから、学校としては運動する場面や会話がない場面ではマスクを外すことの声かけをしたり、室温に気をつけながら換気をしたり、放課後に消毒したり、給食時の指導を徹底したりといった対策を続けることで感染防止に努めます。インフルエンザとの同時流行も危惧されています。環境を整えることも大切ですが、手洗いうがいなどを心がけ、自分で自分を守ることも大切です。

先日防火シャッターが閉まっていることを想定した避難訓練を行いました。本校の児童は大人の指示に従って、周りに合わせて行動することがとても上手です。今回の訓練も静かに慌てず６分２０秒という短時間で校庭に全児童が避難することができました。ただ、防火扉を自分で開けて通らなければならなかったのですが、実際にはシャッターは閉めていなかったので、いつも通りに廊下、階段を通って避難してしまったということがありました。もし本当にシャッターが下りていて、大人の指示もなかった場合に、自分の命を自分で守るためにどう行動しなければならないか、改めて施設を見て確かめてほしい、という話をしました。自分の命は自分で守るもの、一人に一つずつしかない大切なものです。

少し前にテレビのニュースで、あるお寺の掲示物のことが話題になっていました。岐阜県の善休寺というお寺です。世間から注目を浴び多くの人が憧れる人も、日々の雑事をこなすことで精一杯な自分も一人に一つ、大切なものは同じ「尊い命」を持っていて、そしてそれは誰とも代わりはきかない、ということをこのお寺の和尚さんが書かれたそうです。岐阜市では人口を上回るほどの人が集まって、お祭りが行われましたが、大きな事故もなく、集まった人たちはお互いに譲り合ってその瞬間を楽しんだそうです。自分と人との違いに一喜一憂するのではなく、自分は自分、大切な命を持っていること、そして、互いに相手のことを思って生きることができれば、それも自分で自分を守ることに、ただ守るだけではなく、温かい心に触れ、気持ちよく過ごすことのできるのではないかとこのニュースを聞いて思いました。